

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3144933号
(U3144933)

(45) 発行日 平成20年9月18日(2008.9.18)

(24) 登録日 平成20年8月27日(2008.8.27)

(51) Int.Cl.

B 4 2 F 1/02 (2006.01)

F 1

B 4 2 F 1/02

D

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 実願2008-4659 (U2008-4659)
(22) 出願日 平成20年7月8日(2008.7.8)(73) 実用新案権者 592240138
有限会社石切プラスチック
大阪府東大阪市西石切町3丁目3番41号
(74) 代理人 100061745
弁理士 安田 敏雄
(74) 代理人 100120341
弁理士 安田 幹雄
(72) 考案者 東田 作廣
大阪府東大阪市西石切町3丁目3番41号
有限会社石切プラスチック内

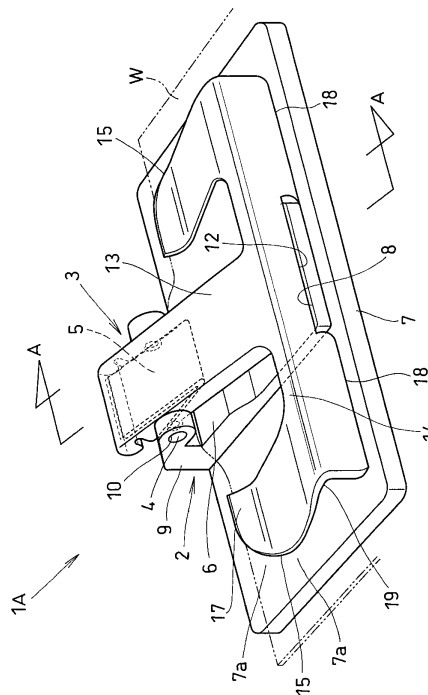
(54) 【考案の名称】 クリップ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】被挟持材Wを挟持した際に、左右方向の揺動だけでなく、左右方向と交差する方向の揺動も抑制できるクリップを提供する。

【解決手段】クリップ1は、左右プレート部を有する第1クリップ片2と、該第1クリップ片2に枢軸4を介して枢着し、かつばね5を介して第1クリップ片2とともに被挟持材Wを挟持する第2クリップ片3とを、備えたクリップにおいて、前記第2クリップ片2には、前記第1クリップ片2と被挟持材Wを挟持するための第1挟持部12から前記枢軸4と平行に左右延長部14が突出され、該左右延長部14から枢軸4に近づく方向に突出して前記第1クリップ片2のプレート部7aとの間で被挟持材Wを挟持するための左右の第2挟持部15が形成されていることである。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

左右プレート部（7a）を有する第1クリップ片（2）と、該第1クリップ片（2）に枢軸（4）を介して枢着しかつばね（5）を介して第1クリップ片（2）とともに被挟持材（W）を挟持する第2クリップ片（3）とを、備えたクリップにおいて、

前記第2クリップ片（3）には、前記第1クリップ片（2）と被挟持材（W）を挟持するための第1挟持部（12）から前記枢軸（4）と平行に左右延長部（14）が突出され、

該左右延長部（14）から枢軸（4）に近づく方向に突出して前記第1クリップ片（2）のプレート部（7a）との間で前記被挟持材（W）を挟持するための左右第2挟持部（15）が形成されていることを特徴とするクリップ。

10

【請求項 2】

前記左右延長部（14）には、前記第1クリップ片（2）のプレート部（7a）との間で前記被挟持材（W）を挟持するための左右第3挟持部（18）が形成されていることを特徴とする請求項1に記載のクリップ。

【請求項 3】

前記左右各第2挟持部（15）と第3挟持部（18）の間には、前記被挟持材（W）から離れた逃げ部（19）が形成されていることを特徴とする請求項2に記載のクリップ。

【請求項 4】

第1クリップ片（2）は、前記第2クリップ片（3）を枢支しかつ第2クリップ片（3）とともに被挟持材（W）を挟持する台座（6）と、この台座（6）を固着してその左右にプレート部（7a）を形成するプレート（7）とで構成されていることを特徴とする請求項1～3のいずれか1項に記載のクリップ。

20

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、ポケットに装着される又はシート材を挟持するためのクリップに関するものである。

【背景技術】

30

【0002】

クリップとしては、例えば、特許文献1に示すように、「透明薄板を二重に形成して中間に紙片等を挿入可能にした収納体の裏面にクリップを固着し、該クリップによつて衣服等を挟持することによつて取り付け可能にした名札において、該クリップを開閉する横杆部の先端をT字形に延長した左右のそれぞれの先端部に収納体に対して圧着する挟持部を設け、該挟持部によつて衣服等を挟持することによつて該名札を縦位置と横位置のいずれでも取り付け可能にしている（特許請求の範囲）」がある。

そして、前記挟持部が収納体に対して圧着する先端を複数に分割してそれぞれ爪部を形成している。

【特許文献1】実開平04-130981号

40

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】****【0003】**

従来技術においては、横杆部の先端に爪部を有する挟持部が、枢軸部の軸心と平行に長く一体的に延設されている。この延設された左右の挟持部によって、被挟持材を挟持したクリップは、横杆部の回りで揺動が抑制される。

しかしながら、左右の挟持部は一直線上に位置しており、この直線配置の挟持部回りの揺動、即ち左右方向と交差する方向の揺動に対しては、抑制するものがない。これにより、衣服のポケットに名札を取り付けるためのクリップにおいては、名札が下を向いてしまう等の問題があった。

50

【 0 0 0 4 】

本考案は、このような従来技術の問題点を解決できるようにしたクリップを提供することを目的とする。

本考案は、被挟持材を挟持した際に、左右方向の揺動だけでなく、左右方向と交差する方向の揺動も抑制できるようにしたクリップを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 5 】

本考案における課題解決のための具体的手段は次の通りである。

第 1 に、左右プレート部を有する第 1 クリップ片と、該第 1 クリップ片に枢軸を介して枢着し、かつばねを介して第 1 クリップ片とともに被挟持材を挟持する第 2 クリップ片とを、備えたクリップにおいて、

10

前記第 2 クリップ片には、前記第 1 クリップ片と被挟持材を挟持するための第 1 挟持部から前記枢軸と平行に左右延長部が突出され、

該左右延長部から枢軸に近づく方向に突出して前記第 1 クリップ片のプレート部との間で前記被挟持材を挟持するための左右第 2 挟持部が形成されていることである。

【 0 0 0 6 】

これにより、第 1 挟持部で被挟持材を挟持した際（例えばポケット縁に挟着する際）に、左右に離れた第 2 挟持部によって、被挟持材は左右方向の揺動が抑制される。

また、左右第 2 挟持部は第 1 挟持部から枢軸に近づく方向に離れていることによって、被挟持材は左右方向と交差する方向の揺動も抑制される。

20

第 2 に、前記左右延長部には、前記第 1 クリップ片のプレート部との間で前記被挟持材を挟持するための左右第 3 挟持部が形成されていることである。

これにより、左右方向及び枢軸遠近方向で広い範囲で挟持でき、被挟持材の左右方向及び左右方向と交差する方向の揺動が抑制される。

【 0 0 0 7 】

第 3 に、前記左右各第 2 挟持部と第 3 挟持部との間には、前記被挟持材から離れた逃げ部が形成されていることである。

これにより、第 2 挟持部と第 3 挟持部との間は、逃げ部の存在によってプレートとの間で挟持することはない。従って、被挟持材を挟持した際に、枢軸に近い位置に存在する左右第 2 挟持部と、枢軸から離れた位置に存在する第 3 挟持部のみによって、被挟持材は確実に挟持される。

30

第 4 に、第 1 クリップ片は、前記第 2 クリップ片を枢支しかつ第 2 クリップ片とともに被挟持材を挟持する台座と、この台座を固着してその左右にプレート部を形成するプレートとで構成されていることである。

【 0 0 0 8 】

これにより、プレートに任意の形状又は大きさのものを使用して、挟持する被挟持材に最適なクリップにすることができる。

【考案の効果】

【 0 0 0 9 】

本考案によれば、被挟持材を挟持した際に、左右方向の揺動だけでなく、左右方向と交差する方向の揺動も抑制できる

40

【考案を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 0 】

以下、本考案の実施形態を図面に基づいて説明する。

図 1 ～ 図 4 に示す第 1 実施形態において、クリップ 1 A は、例えば、衣類の胸ポケットに名札を取り付けるためのクリップであり、紙類を挟持するのにも利用できる。。

前記クリップ 1 A は、第 1 クリップ片 2 と、第 1 クリップ片 2 とともに被挟持材 W を挟持するための第 2 クリップ片 3 と、前記第 1 クリップ片 2 と前記第 2 クリップ片 3 とを開閉自在に連結するための枢軸 4 と、前記第 1 クリップ片 2 と前記第 2 クリップ片 3 とを挟持するためのばね 5 と、から構成されている。

50

【 0 0 1 1 】

前記第 1 クリップ片 2 は、枢軸 4 を枢着させるための台座 6 をプレート 7 に固着して形成されている。前記台座 6 とプレート 7 とはそれぞれ合成樹脂によって製作されているが、金属等で製作されてもよい。

台座 6 は先端側の板厚が、基部側の板厚より薄く形成されており、その先端側が第 2 クリップ片 3 とともに被挟持材 W を挟持するための挟持受部 8 となっている。基部側の左右方向両端には、台座 6 から上方向すなわちプレート 7 から離れる方向に向かって斜めに突出した軸受部 9 が形成され、この軸受部 9 は左右対称で二股状に突設している。左右の軸受部 9 には、枢軸 4 を枢支するための軸孔 10 が穿設されている。

【 0 0 1 2 】

図 2 に示すように、左右の軸受部 9 の間の台座 6 の基端上面には凸部 11 が形成され、V 字形状のばね 5 の一辺（下辺）を係止している。

プレート 7 は平板で形成され、クリップ 1 A を名札用を使用する場合、前記プレート 7 は名札プレートとなり、その表面に名前を記入するか、名刺を挟めるように構成される。前記プレート 7 の左右幅は、前記台座 6 の左右幅より幅広に形成され、前記台座 6 よりも左方に突設している左プレート部 7 a と、右方に突設している右プレート部 7 a とを有する。前記第 1 クリップ片 2 は、左右プレート部 7 a を有するプレート 7 が、ベースとなる台座 6 と別個に形成されて互いに固着されているが、台座 6 と一体成形してもよい。

【 0 0 1 3 】

前記第 2 クリップ片 3 は、第 1 クリップ片 2 の挟持受部 8 とともに被挟持材 W を挟持するための第 1 挟持部 12 を先端に有する中央部 13 と、第 1 挟持部 12 から左右方向にそれぞれ延設された左右延長部 14 と、左右延長部 14 から枢軸 4 に近づく方向に突出して前記第 1 クリップ片 2 の左右プレート部 7 a との間で被挟持材 W を挟持するための左右の第 2 挟持部 15 とを有している。第 2 クリップ片 3 は、第 1 クリップ片 2 と同様に、合成樹脂によって製作されるが、金属等で製作してもよい。

第 2 クリップ片 3 の中央部 13 は、左右の軸受部 9 間に嵌入されており、左右の軸受部 9 の軸孔 10 に嵌り込むための左右対称な枢軸 4 が一体成形されている。

【 0 0 1 4 】

前記枢軸 4 は台座 6 及び中央部 13 の端部より中央側に位置し、中央部 13 の端部を指で押すことにより、第 1 挟持部 12 を挟持受部 8 から離すように中央部 13 を揺動できるようにしている。なお、中央部 13 に台座 6 の枢軸 4 と対向する軸受部を形成し、それらに別途形成した枢軸 4 を貫通するようにしてもよい。

中央部 13 には、収納凹部 16 が台座 6 の凸部 11 と対向する面に形成され、前記 V 字形状のばね 5 の他辺（上辺）を係止している。

前記左右各延長部 14 の外端から枢軸 4 に近づくかつプレート 7 に近づくように傾斜した第 2 挟持部 15 が形成されている。前記第 2 挟持部 15 はばね 5 の作用によって、また延長部 14 からプレート 7 に近づく形状によってプレート 7 に弾圧されており、中央部 13 を揺動して第 1 挟持部 12 が挟持受部 8 から離れた状態でもプレート 7 に当接していても良い。左右の第 2 挟持部 15 の先端は被挟持材 W の挿脱を容易にするためにそり形状の屈曲部 17 が形成されている。

【 0 0 1 5 】

左右延長部 14 のプレート 7 側の端縁には、第 1 クリップ片 2 の左右プレート部 7 a との間で被挟持材 W を挟持するために、プレート 7 と対向する面に左右の第 3 挟持部 18 が形成されている。図 1 に示すように、左右の第 3 挟持部 18 は、被挟持材 W を挟持するために、第 1 挟持部 12 より左右プレート部 7 a に近づく方向に向かって、台座 6 の先端側の板厚と略同じ寸法だけ突出している。

前記左右それぞれの第 2 挟持部 15 と第 3 挟持部 18 との間には、プレート 7 との間に逃げ部 19 が形成されている。

【 0 0 1 6 】

図 1 に示すように、ばね 5 は、板ばねによって構成され、板ばねの中央で V 字状に屈曲

10

20

30

40

50

され、凸部 11 に向かって付勢しようとする一辺 5a (下辺) と、収納凹部 16 に向かって付勢しようとする他辺 5b (上辺) とから構成されている。

ばね 5 の一辺 5a には、台座 6 の凸部 11 が嵌め込まれるための凹部 20 が形成されている。

ばね 5 の一辺 5a と他辺 5b とが遠ざかる方向に付勢することで、枢軸 4 を介して枢着された第 1 クリップ片 2 の挟持受部 8 側と第 2 クリップ片 3 の第 1 挟持部 12 側とは、近づく方向すなわち挟持する方向に付勢することになる。

【0017】

図 3 の 2 点鎖線で示すように、クリップ 1A が挟持解除方向に回動 (第 2 クリップ片 3 が矢印 X 方向に回動) した状態で、被挟持材 W は台座 6 の挟持受部 8 と第 2 クリップ片 3 の第 1 挟持部 12 との間から左右の第 2 挟持部 15 に向かって挿入される。挿入された被挟持材 W は、枢軸 4 から遠い第 1 挟持部 12 と、第 1 クリップ片 2 の第 1 挟持部 12 よりも枢軸 4 に近い左右第 2 挟持部 15 と、前記第 1 挟持部 12 の左右延長線上に位置する左右第 3 挟持部 18 とによって、第 1 挟持部 12 を中心にして左右それぞれに 2 点計 5 点で挟持され、被挟持材 W に対して左右方向及び左右方向と交差する枢軸 4 遠近方向の揺動が抑制される。

【0018】

第 2 挟持部 15 と第 3 挟持部 18 との間は、逃げ部 19 の存在によってプレート 7 との間で挟持することはない。この逃げ部 19 によって第 2 挟持部 15 はプレート 7 に対して弾圧するための弾性変形可能な形状に形成できる。また、被挟持材 W を挟持した際に、枢軸 4 に近い位置に存在する左右の第 2 挟持部 15 と、枢軸 4 から離れた位置に存在する第 3 挟持部 18 によって、被挟持材 W は確実に挟持される。

図 5 に示す第 2 実施形態において、クリップ 1B の左右延長部 14 は左右外端側が先細り形状になっており、延長部 14 に形成された第 3 挟持部 18 は第 1 挟持部 12 近傍から左右外方へ且つ枢軸 4 に近づく方向に傾斜している。

【0019】

図 6 に示す第 3 実施形態において、クリップ 1C は第 3 挟持部 18 が形成されてなく、左右延長部 14 のプレート 7 側の面は第 1 挟持部 12 と直線状に形成されている。中央部 13 には窪み 13b が形成されていて、この窪み 13b に安全ピン 13a が装着されており、ばね 5 の他辺 5b によって抜止めされている。

図 7 に示す第 4 実施形態において、クリップ 1D は、第 3 挟持部 18 が形成されてなく、左右延長部 14 から第 2 挟持部 15 にわたる外周が円弧形状になっている。

図 8 に示す第 5 実施形態において、クリップ 1E は左右プレート部 7a と台座 6 とが一体に形成されている。挟持受部 8 はプレート 7 の表面に形成され、中央部 13 の第 1 挟持部 12 は延長部 14 よりもプレート 7 側に突出した突起部 21 で形成されている。

【0020】

このクリップ 1C, 1D, 1E は、クリップ 1C に挿入された被挟持材 W が第 1 挟持部 12 と左右それぞれの第 2 挟持部 15 とによって、すなわち 3 点で挟持される。

なお、ばね 5 は、板ばねに代えて、コイルばね等を使用してもよい。

さらに、プレート 7 は、四角形状に形成されているが、三角形状、五角形状をはじめとする多角形状にしてもよく、また円形状、楕円形状をはじめとする R 形状にしてもよい。

【図面の簡単な説明】

【0021】

【図 1】本考案の第 1 実施形態を示すクリップの全体斜視図である。

【図 2】図 1 における A - A 線断面図である。

【図 3】同クリップの左側面図である。

【図 4】同クリップの平面図である。

【図 5】第 2 実施形態を示すクリップの全体斜視図である。

【図 6】第 3 実施形態を示すクリップの全体斜視図である。

【図 7】第 4 実施形態を示すクリップの全体斜視図である。

10

20

30

40

50

【図 8】第 5 実施形態を示すクリップの全体斜視図である。

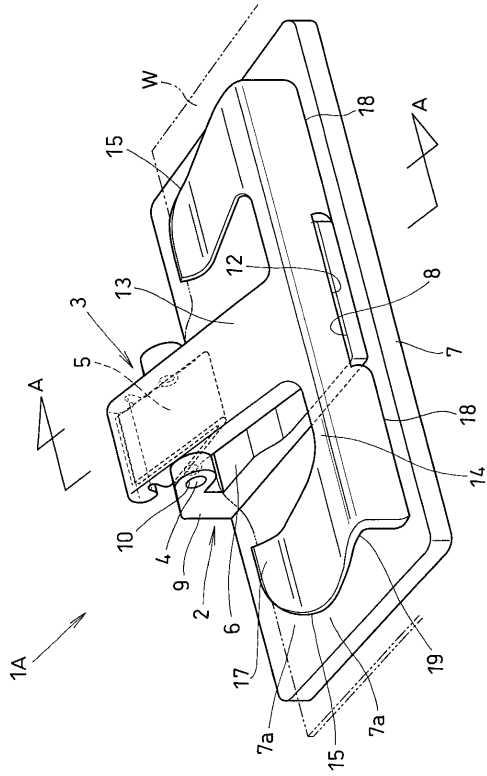
【図 9】同クリップの左側面図である。

【符号の説明】

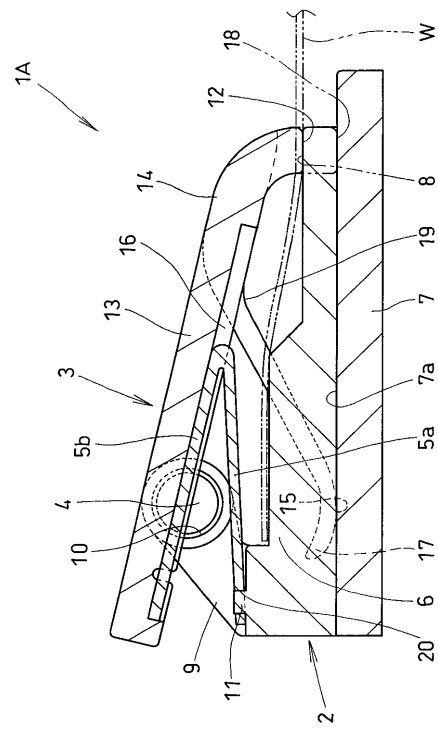
【 0 0 2 2 】

1	クリップ	
2	第 1 クリップ片	
3	第 2 クリップ片	
4	枢軸	
5	ばね	
5 a	一辺	10
5 b	他辺	
6	台座	
7	プレート	
7 a	プレート部	
8	挟持受部	
9	軸受部	
1 0	軸孔	
1 1	凸部	
1 2	第 1 挟持部	
1 3	中央部	20
1 3 a	安全ピン	
1 3 b	窪み	
1 4	延長部	
1 5	第 2 挟持部	
1 6	収納凹部	
1 7	屈曲部	
1 8	第 3 挟持部	
1 9	逃げ部	
2 0	凹部	
2 1	突起部	30
W	被挟持材	

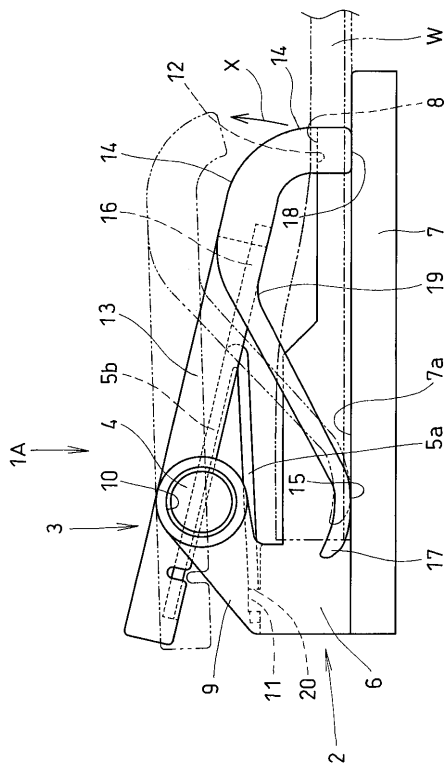
【図 1】



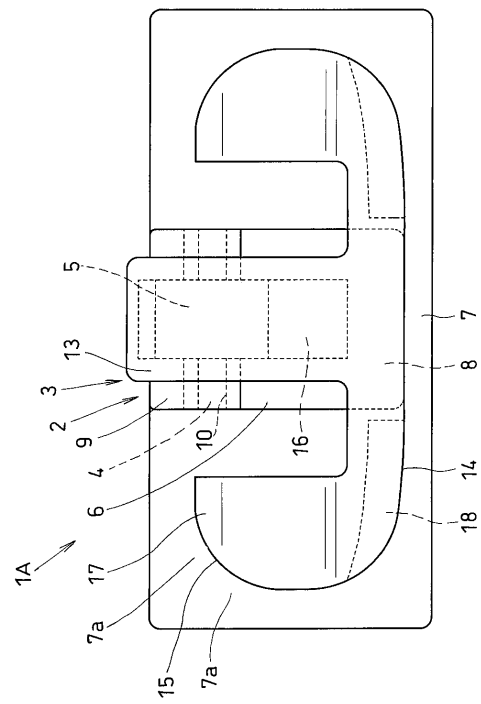
【図 2】



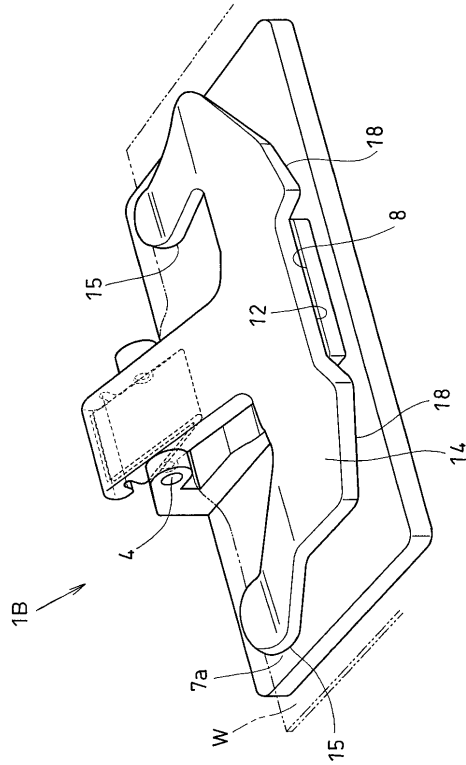
【図 3】



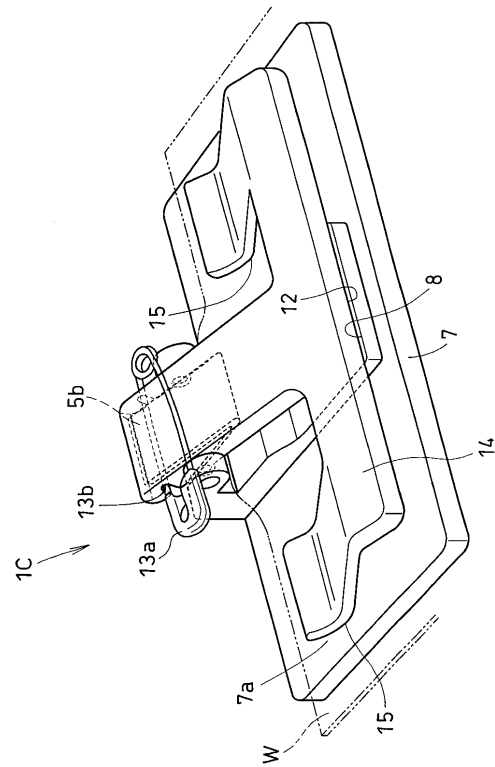
【図 4】



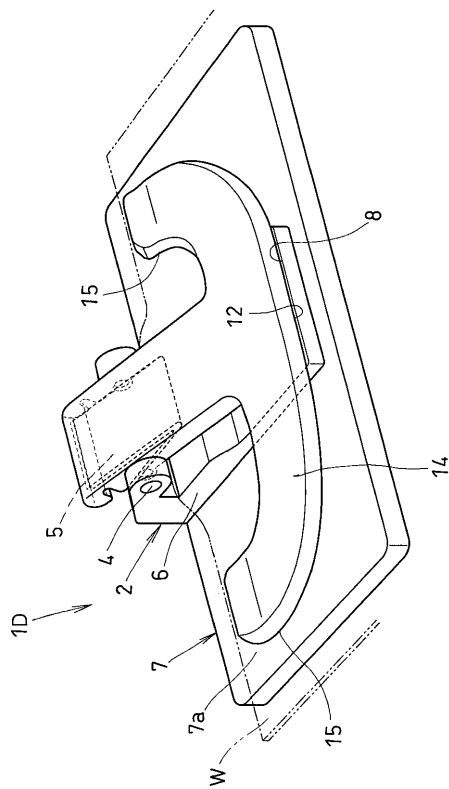
【図 5】



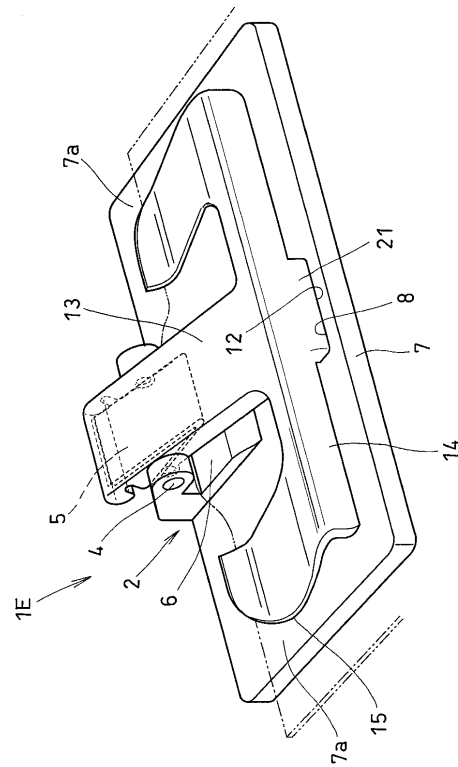
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【図 9】

